

# プラント関係の審査状況をお知らせします

先日開催した「地域の皆さまへの説明会」の内容を3回にわたってお知らせします。(今回2回目)  
説明会では6、7号機の適合性審査の状況についてご説明しました。当社は自然現象や火災などで安全確保に必要な設備が一斉に機能を失わないことや、新たに強化した安全対策で重大事故に有効に対処できると評価しています。

## 新規制基準適合性審査について

- ◆発電所では、福島第一の事故を教訓にした様々な安全対策を進めています。
- ◆この安全対策を原子力規制委員会に客観的評価をいただくことが重要と考え、平成25年9月に6、7号機の新規制基準適合性審査を申請しました。
- ◆説明会までに、地震・津波等の審査が3回、プラント関係の審査が18回行われています。



## 1. プラント関係の審査状況

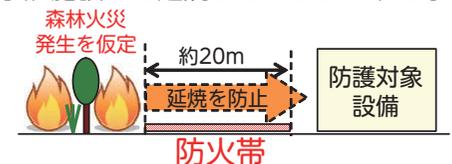
主要な審査項目		1月22日現在 審査状況
設計基準 対象施設	外部火災（影響評価・対策）	実施中
	火山（対策）	今後実施
	竜巻（影響評価・対策）	今後実施
	内部溢水対策	実施中
	火災防護対策	実施中
重大事故 等対処施設	確率的リスク評価	実施中
	有効性評価	実施中
	解析コード	今後実施
	制御室（緊急時対策所含）	今後実施
	フィルタベント	実施中

- ◆設計基準対象施設については、自然現象や溢水などでも、安全確保に必要な設備が一斉に機能を失わない対策を審査いただいています。
- ◆重大事故等対処施設については、あらゆる組み合わせで安全確保に必要な設備が故障したとしても、新たに強化した安全対策や手順で有効に対処できることを審査いただいています。

## 2. 外部火災の審査

【審査のポイント】 森林火災等によって原子炉施設まで延焼しないようにする事が求められています。

- ◆24時間発電所に常駐する自衛消防隊が延焼を防止します。
- ◆新たに防火帯を設置します。



## 3. 内部溢水の審査

【審査のポイント】 水漏れや消火活動で浸水しても多重化された安全設備の1つは守られることが求められています。

- ◆浸水経路の止水対策を実施して、その有効性をシミュレーションで確認しています。

溢水対策の施工例と1プラント当たりの数（今後変更有）



#### 4. 火災防護の審査

【審査のポイント】安全確保に必要な設備が火災で損なわれないように

- ①火災発生防止
- ②火災感知設備・消火設備の設置
- ③火災の影響低減対策が求められています。

◆発電所で実施しているそれぞれの対策を審査いただいています。

#### 5. 重大事故等対処施設の審査

【審査のポイント】複数の安全設備の故障等により重大事故等が発生しても対処できることが求められています。

◆新たに設置した重大事故等対処設備や手順を用いて有効に対処できることを審査いただいています。

ガスタービン発電機車（3セット配備）



電源車（23台配備）



淡水貯水池



消防車（消火用3台含め42台配備）



代替熱交換器設備（7台設置）



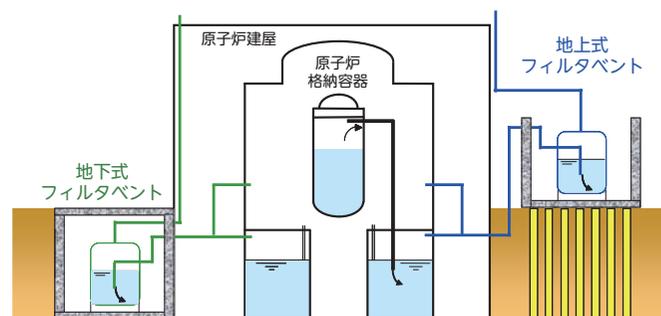
原子炉建屋水素処理設備



#### 6. フィルタベントの審査

◆フィルタベントは、重大事故時に格納容器から放射性物質が直接放出されることを防ぎ、セシウム等の粒子状の放射性物質を99.9%以上除去できます。

◆継続的な安全性向上の取り組みとして地上式フィルタベントと同等の仕様の地下式フィルタベントの追加設置を予定しています。



#### 7. 技術的能力の審査

【審査のポイント】重大事故の発生および拡大防止に必要な技術的能力が求められています。

- ◆緊急事態下での弾力性ある組織的対応のために、米国の先進的な現場指揮マネジメントシステムの考え方を導入しました。
- ◆従来の想定を大きく超える事故の対応手順を整備しました。
- ◆発電所と本店の緊急時要員を増員しました。
- ◆緊急時対応の能力向上に向け訓練を繰り返し実施しています。

福島第一の事故から平成26年11月までの訓練実績

総合訓練



発電所 本店  
条件を様々に変えながら33回実施

個別訓練の例



電源車操作訓練



がれき除去訓練



消防車操作訓練



ガスタービン  
発電機車操作訓練

夜間や悪天候時など様々な状況を想定した訓練をのべ約5,000回実施